



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

| | |
|--------------------------|--|
| Title 論文題目 | 地域在住後期高齢者の身体的、精神・心理的、社会的変化と 虚弱（フレイル）およびADL障害に関する因果モデル： 構造方程式モデリングによる検討 |
| Author(s) 著者 | 牧野, 圭太郎 |
| Degree number 学位記番号 | 甲第33号 |
| Degree name 学位の種別 | 博士（理学療法学） |
| Issue Date 学位取得年月日 | 2017-03-31 |
| Original Article 原著論文 | |
| Doc URL | |
| DOI | |
| Resource Version | |

博士論文の要約

| | | | |
|--|-----------|-----|--------|
| 報 告 番 号 | 甲第 1358 号 | 氏 名 | 牧野 圭太郎 |
| <p>論文題名 (日本語)</p> <p>地域在住後期高齢者の身体的、精神・心理的、社会的変化と虚弱 (フレイル) および ADL 障害に関する因果モデル: 構造方程式モデリングによる検討</p> <p>論文題名 (英語)</p> <p>A causal model of physical, psychological, and social change, and frailty and disability among community-dwelling old-old people: A structural equation modeling approach</p> <p>【研究目的】</p> <p>フレイルとは、高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、要介護状態や死亡などの転帰に陥りやすい状態のことを指し、近年その臨床的重要性と有用性の高さから注目が集まっている。特に、75 歳以上の後期高齢者では、加齢に伴う機能低下が徐々に顕在化し、フレイルに陥るリスクが高いと考えられている。</p> <p>本研究は、地域在住後期高齢者の身体的、精神・心理的、および社会的因子の縦断変化に着目し、フレイルおよび ADL 障害発生までのプロセスを構造的に理解するための統計学的モデルを提唱することを目的とした。</p> <p>【研究方法】</p> <p>2012 年に実施した心身の機能測定会 (ベースライン調査) の参加者に本研究への参加を郵送にて依頼し、同意が得られた者に対して身体的、精神・心理的、社会的指標と、フレイル、ADL 障害の評価を行った (フォローアップ調査、2015 年)。これらの縦断データをもとに構造方程式モデリングを実施し、身体的、精神・心理的、社会的因子の縦断変化とフレイルおよび ADL 障害発生を説明する 2 つの仮説モデル (並列構造モデル、階層構造モデル) を比較検討した。</p> | | | |

【研究結果】

本研究におけるフレイルの有症率は17.3%であり、フレイルと判定された者はそうでない者よりADL 障害を有する割合が高かった ($p<0.01$)。構造方程式モデリングの結果、フレイルは身体的、精神・心理的、社会的因子からそれぞれ影響を受けることが示された。仮説モデルを比較した結果、後期高齢者のフレイルおよびADL 障害を説明するモデルとしては、並列構造モデルよりも階層構造モデルがより適合することが明らかになった。修正後の階層構造モデルにおいて、精神・心理的因子と身体的因子は相互に影響し合いながら、それぞれが社会的因子からの影響を受け、フレイルおよびADL 障害へ繋がるモデルが最も高い適合度を示した。

【考察】

本研究結果から、後期高齢者においてもフレイルは ADL 障害のリスクを高めることが確認された。また、フレイルは身体的、精神・心理的、社会的因子からそれぞれ影響を受けており、各因子間では高次の因子がより低次の因子へと影響を及ぼし合いながら加齢変化を招いていると考えられた。

キーワード：後期高齢者、虚弱（フレイル）、ADL 障害